

碑前祭を始めて50年

にぎやかに牧水祭・芝酒盛

晩年を沼津で過ごした歌人若山牧水を偲ぶ「牧水碑前祭・芝酒盛」が、千本浜公園内に建つ「幾山河」碑前で行われた。

市制八十周年と、碑前祭を始めて五十年を迎えた区切りの今年、露骨をかぶった富士山が遠望出来、柔らかな陽光が松の葉に注ぐ中、市民や牧水ゆかりの地から多くの人が訪れ、にぎやかな行事を繰り広げた。

林茂樹沼津牧水会理事

良や井上端、明石海人ら

長は、市制八十周年を記念して導入された沼津文学祭について、「牧水を再認識する良い機会をつくってくれた」と感謝し、「全国を旅した牧水が最期の地として選んでくれた沼津の良さを全国に広めなくては」とあいさつ。

各地から人々が集まり、国を重ねる毎に盛んになっていく、うれしいこと」と喜びを表し、芹沢光治

を挙げ、「沼津には良い意味で感性を刺激するものがあるのでは。沼津の環境の良さを全国に発信しなければ」と語った。

長澤精夫教育長は、文学者が輩出した沼津には、ロマンがあるのでは、と指摘し、「壮大な文章を構築していくことは、長い人生を豊かに築き上げていくこと」と語った。

牧水の孫の榎本益子牧水館長は、文学祭メイン行事として、「牧水は何を見たか」と「牧水から現代短歌へ」をテーマにドイッ文学者池内紀氏による記念講演や歌人らによるシンポジウムが行われたことに感謝した。

また、牧水記念館建設など沼津牧水会の活動に対し、「ひと口にありがたい、だけでない」と半世紀に及ぶ顕彰に謝辞を述べ

た後、碑前に進み、花と酒を飲んだ。

続いて、中学生短歌コンクールの表彰式、花柳奇絆師の舞い、「牧水のうた」を歌う会の会員による牧水の「薄紅に葉はいちはやく潮え出て映かむとすなり山桜花」などが混声で披露された。

この後、斎藤市長らによる饗宴が行われ酒宴に移った。



牧水の短歌を歌う「牧水のうた」を歌う会
会員＝千本浜公園の牧水歌碑前で



「中学生短歌コンクール」で特選に入賞した生徒が林理事長から表彰を受けた